



3月3日(金)

同窓会入会式、 立志式を開催



3月3日(金)本校同窓会の渡邊正彦会長他4名の役員の皆様にご臨席いただき、同窓会入会式を行いました。会の後半では、副会長の保坂成子様よりご挨拶をいただきました。学区内にある「日和山方角石」等の史跡や能代七夕の始まりなどのお話を伺い、子どもたちは、地域の

の伝統を知り、受け継いでいく、自分たちの“役割”について自覚を深めることができましたようです。

入会式の終了後には、4・5年生も参加し、“立志式”を行いました。卒業生一人一人が、将来の夢と「その実現に向けて努力したいこと」をしっかりと発表できました。校訓「立志」の精神が、卒業生全員の胸に確かに刻まれていることが感じられました。「誰かのために、何かができる、素敵な人」を目指し、ゆっくりと、じっくりと歩いていってほしいと思いました。

3月5日(日) 昇平岱自治会(昇平岱凧の会)様より 能代凧を寄贈いただきました。



体育館の大凧が大分傷んでいたことから、昨年末に大凧の寄贈先である昇平岱自治会様へ、取り外し等のご相談をさせていただきましたところ、「新しい凧を寄贈したい」「今年度の卒業式に間に合うよう、制作・設置したい」との有り難いお申し出をいただきました。

3月5日(日)午前、新しい大凧が体育館に到着。「昇平岱凧の会」のはっぴをまとった方々が、手際よく作業を進めてくださり、約1時間ほどで設置作業が終了しました。鮮やかな色彩の「女べらぼう」に見守られ、子どもたちの校内生活が一層充実しそうです。関係の皆様のご厚意に深く感謝を申し上げます。

◆編集後記◆(卒業式予行練習の中で、次のようなお話をしました。)時々この話を思い出します。30年ほど前の9月、第五小の校舎・体育館が、火事で焼失しました。新しい校舎を建てるまでの、仮設校舎での生活、仮設校舎ができるまでの日々、大変だったと思います。新校舎の建設に向け、困った問題がありました。すでに崇徳小の新校舎建設に向け、準備が進んでいたからです。2校を同時に建設できるのか。無理ではないか。関係のみなさんは、頭を悩ませたことでしょう。そんなとき、崇徳小学校の新校舎建設に向け、努力と話し合いを重ねてきた、檜山地区の代表の方々が、その当時の教育委員会・教育長さんのところに赴き、こんなお願いをしたそうです。「自分たちの学校のことは、後回しでもよいので、五小の校舎を早く建ててあげてください。」教育長さんは、大変感激して、2校の同時建設を決意。関係の人たちに指示を出したそうです。昔の話なので、正確でないかもしれませんが、大体は合っていると思います。みんなが育った“能代”は、そういう思いをもった人たちが住むところです。このお話の中に、校長先生は、「立志」の精神を感じます。能代凧を寄贈して下さった皆様に対しても……。多くの方々の「素敵な思い、行い」に支えられた、この年月を思い、心に残る卒業式をみんなで創り上げましょう。(高)